



子どもの笑顔、未来のために、

きのと小 燦 だより

子どもの方を向き、みんなで力を合わせて育てましょう

令和元年 5月29日

学校だより 第2号

胎内市立きのと小学校

<http://tainai-ed.nxc.jp/kinoto-es>



伸びゆく力

校長 松原 利弘

運動会を一週間延期しました。子どもたちは今、運動会に向けて、競技や応援の練習に励んでいます。運動会当日は、素晴らしい姿を見せてくれることを期待しています。保護者の皆様、地域の皆様から温かい御声援を、どうぞよろしく願います。

運動会に向けて、上学年の応援団員の子どもたちを中心に応援練習を進めています。応援練習の初日は、団員の指示が通らないのか、なかなか声が出ませんでした。しかし、日を迫うごとに、全校の声が大きくなり、団員の姿も凛々しく、指示も明確になりました。「子どもは成長する」、そう感じさせてくれる姿です。

先週、1年生が生活科の学習で「アサガオの観察」の感想を書きました。子どもらしい感性の光る文でした。入学式から6週間、初めは自分の名前を書くこともおぼつかなかった子どもたちです。でも、平仮名を覚え、自分の思いを文にすることができるようになりました。素晴らしいことです。

「伸びゆく力」とは、今日より、さらによく、よりよいものを目指す力、より高くなっていく力です。この「伸びゆく力」は人間誰しもがもっていると、私は考えています。未来ある子どもたちあればなおさら、この力は強いです。子どもを伸ばすことが学校の役目です。

では、この「伸びゆく力」はどのようにして引き出すことができるのでしょうか。

その一つのヒントなるものに『魔法のコーチング』(2004:トム・コネラン著 高遠裕子訳)という本があります。著者のトム氏は「高いパフォーマンスの要因」として、①「期待すること」、②「責任を与えられる」こと、③「多くのフィードバックを受ける」ことを挙げています。この三つの過程は、次のようになります。まず「この子はできる」、「きっとできるから、させてみよう」と前向きな期待をもち、それを伝えます。そのうえで適度な責任を与えます。達成可能な目標も、ここでいう責任になり得ると思います。この後に、実践や実行があります。これに対して「よく出来ている」や「ここを少し変えてみたらうまいよ」などのフィードバックを与え続けます。この3つの要因の連続により、人は、より高いパフォーマンスを生み出します。

これらのことはいずれも大切なことです。しかし、まず①「期待すること」なければ、始まりません。私は、この「期待すること」の大切さを強く感じています。「期待すること」、言い換えれば、「子どもの成長を信じること」です。教師を含め、周りの大人が子どもの成長を、「伸びゆく力」を期待するところから、教育はスターとするのではないのでしょうか。

今後も、学校、家庭、地域で子どもたちの成長を見守っていきたいと考えています。御協力と御支援をお願いいたします。